

防護柵の設置マニュアル(電気柵編)

1 用意するもの



<必要な資材>

- ・電線（金属線の編み込み本数の多いものが良い）、支柱、碍子
- ・電牧器（アースを含む）、危険表示板
- ・防草シート（通電性があるもの）

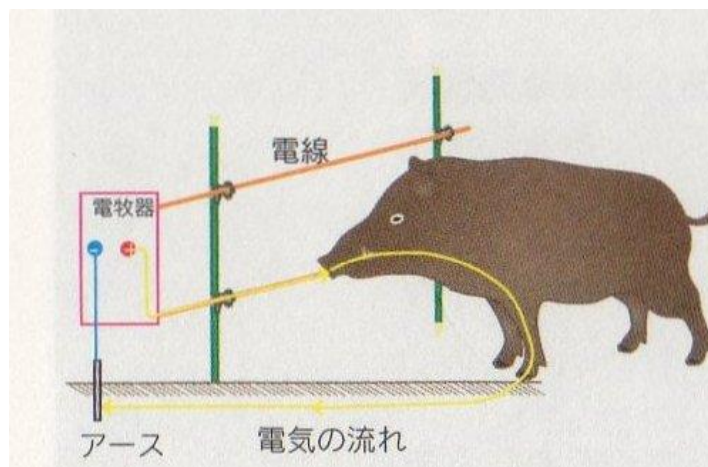
<必要な道具>

- ・ハンマー、打ち込み器（支柱用）
- ・電圧チェッカー、巻尺
- ・金属棒（支柱の穴あけ用）、ペンチ

2 設置の手順

① 設置場所のルート決め	② 設置場所の草刈・整地	③ 碍子の取り付け	④ 支柱の打ち込み	⑤ 電線張り、電牧器の設置
● 水田や畑を完全に囲うこと ● 設置後の管理が容易な場所に設置	● 柵の両側 1mは通路とする ● 草刈や整地等を行う	● 支柱に碍子を取り付ける ● 碍子の間隔は 20cm とする	● 支柱を 3～4m 間隔で打ち込む ● 碍子はイノシシの侵入側に向ける	● 電線を張り（ピンと引っ張らない）、高さを調節する ● 電圧が 4000V 以上あること

3 イノシシ等が感電する仕組み



○イノシシを感電させるには、鼻先が電線に触れ、体をとおして電気が地面に流れる必要がある。

○イノシシの鼻先に触れやすくするためには、電線の高さを 20cm 間隔とする。

【豆知識】 電牧器の種類ごとに有効距離が決まっているので、電線を張る段数が増えれば柵の延長距離が短くなる。

有効延長 3,000m の場合

2 段張り⇒柵延長 1,500m まで

3 段張り⇒柵延長 1,000m まで

4 設置のコツ

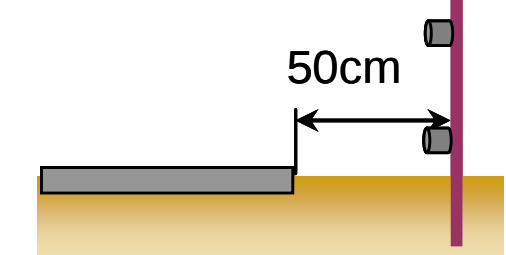


- 碍子が 20cm 間隔となるよう、確認しながら設置する。（赤白ポールは 20cm 間隔に色分けしているため、高さの確認が容易。）
- 碍子は、必ず獣側（外側）に向けること。

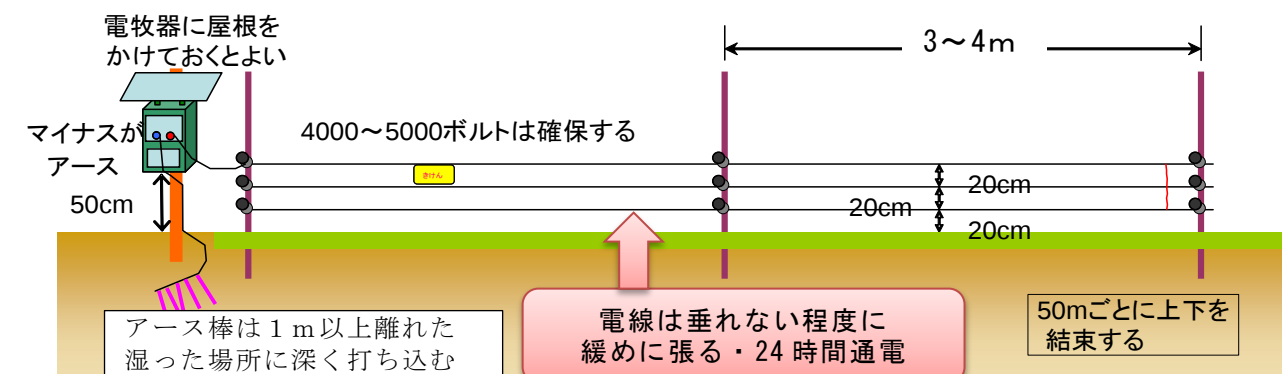
- イノシシの前足が土を踏まないこと、十分な電圧が確保できない。
- アスファルト等の舗装から 50cm 以上離して、支柱を立てること。

アスファルトやコンクリートから 50cm 離す

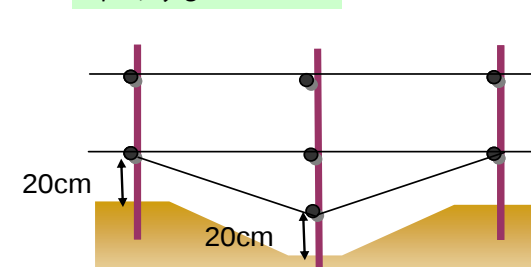
碍子は必ず外向きに設置



5 完成図(イノシシ用の場合)



窪みも地表から 20cm をキープする



<柵の管理とメンテナンス>

餌付け防止のため、電線は年中張り、必ず 24 時間通電すること。

定期的に電圧を測定し、電圧が 4000 ボルト以上確保されている状態にすること。

【電圧が低下する原因】

- 電線が草等に触れ漏電している場合
- 電池・バッテリー切れ
- 電線の断線 等